

令和9年度 市民活動助成金について

1. 審査方法における課題と改善案について

○書類審査の導入におけるこれまでの経緯

- ・当初は対面式のプレゼン審査のみであったが、審査当日に都合が合わず出席ができない委員の意見が反映できないため、全委員の意見が反映できるような仕組みづくりが必要だった
- ・事前に提案書を送付し、採点する書類審査を導入
- ・書類審査時に委員が気になった点を質問票としてまとめ、団体に送付
- ・質問票に対する回答は一律プレゼンに入れ込み回答する形とした

○書類審査導入後の課題、検討事項

- ・提案団体の負担の増加
→委員が提出される書類をチェックし、提案事業の細部において確認することにより、専門的な知見から、より多くの質問や意見が生まれる。
その結果、質問に対して団体から「プレゼンに入れ込む形では全てに回答ができない」、「どういった意図で聞かれているか分からない」という声が多く聞かれた。
- ・書類審査である必要性
→A I等の利用による書類作成が容易にできるなかで、書類審査がどのような役割（委員に書類のどの点をチェックしてほしいか等）を担っているのか不明確であった。

○改善案

（別紙「市民活動助成金審査方法における改善案一覧」参照）

2. 今年度のスケジュール案について

時 期	内 容
令和8年12月18日（金）	市民活動助成金事業提案書の提出期限
令和9年1月上旬	各委員へ提案書を送付 （メールまたは郵送）
令和9年1月29日（金）	書類審査・質問表の返送
令和9年2月上旬	質問表を団体へ共有
令和9年2月下旬	企画提案発表会

